

ノーベル医学生理学賞に山中氏



〒030-0180
青森市第二問屋町3丁目1番89号
東奥日報社
(C)東奥日報社 2012

インターネット
号外

購読の
お問い合わせは
東奥日報社読者局
011-4915333
24時間受付



山中伸弥京都大教授

「iPS細胞」を開発した山中伸弥氏、京都大教授(50)が、ノーベル医学生理学賞を受賞した。成果が、再生医療への応用が期待される。iPS細胞は、幹細胞の一種で、あらゆる種類の細胞に分化する能力がある。山中伸弥氏は、2006年に、iPS細胞を開発した。この発見は、再生医療への応用が期待される。山中伸弥氏は、京都大教授(50)が、ノーベル医学生理学賞を受賞した。成果が、再生医療への応用が期待される。iPS細胞は、幹細胞の一種で、あらゆる種類の細胞に分化する能力がある。山中伸弥氏は、2006年に、iPS細胞を開発した。この発見は、再生医療への応用が期待される。

山中伸弥氏は、2006年に、iPS細胞を開発した。この発見は、再生医療への応用が期待される。山中伸弥氏は、京都大教授(50)が、ノーベル医学生理学賞を受賞した。成果が、再生医療への応用が期待される。iPS細胞は、幹細胞の一種で、あらゆる種類の細胞に分化する能力がある。山中伸弥氏は、2006年に、iPS細胞を開発した。この発見は、再生医療への応用が期待される。

山中伸弥氏(やまなか しんや)は、1962年9月4日、大阪府大阪市出身。京都大学医学部卒業後、京都大学医学部臨床研修医。京都大学医学部教授。再生医療の第一人者として知られる。iPS細胞の研究で、ノーベル賞を受賞した。山中伸弥氏は、京都大教授(50)が、ノーベル医学生理学賞を受賞した。成果が、再生医療への応用が期待される。

詳細は朝刊で